



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

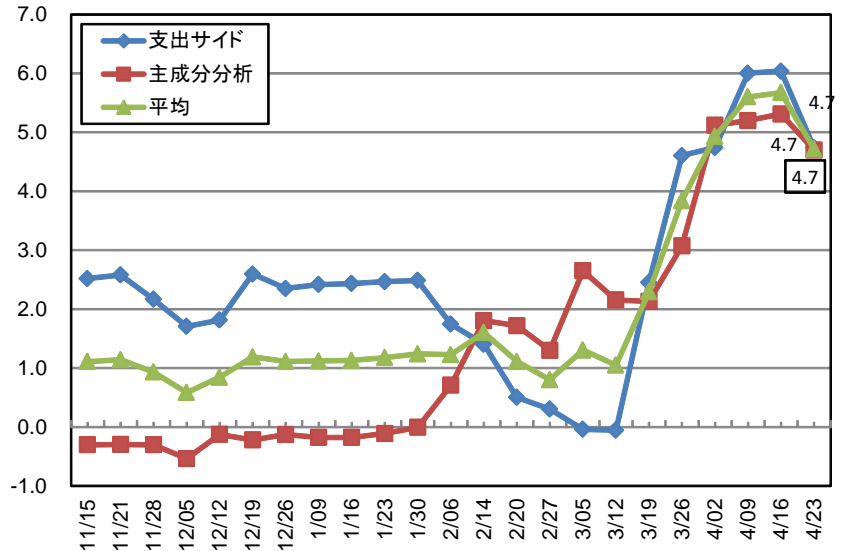
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.co.jp

# 日本経済(週次)予測(2012年4月23日)

## ポイント

- ▶今週の CQM は、1-3 月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+4.7%と予測。先週の予測(+6.0%)から下方修正されたが依然と高成長を維持。
- ▶データ更新により、1-3 月期実質公的固定資本形成の予測値は先週から上方に、一方、実質政府最終消費支出及び実質純輸出の予測値は下方に修正された。
- ▶2月の公務等活動指数は前月比3ヵ月連続のマイナス。このため 1-3 月期の実質政府最終消費支出の予測値は前期比-0.2%と大幅に下方修正。
- ▶2月の公共工事は前月比2ヵ月連続のプラス。この結果、1-3 月期の実質公的固定資本形成の予測値は前期比+15.2%と先週から上方修正。
- ▶1-3 月期の貿易収支は 1.442 兆円の赤字となったが、赤字幅は前期より 3%縮小した。1-3 月期の実質純輸出の予測値は先週より下方修正されたが、2 期ぶりの前期比プラス。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2012Q1 (%、前期比年率換算)



### <1-3 月期 CQM 予測は 2 週連続で調整されたが依然高成長を維持>

先週は(4/16-4/20)は 3 月の消費動向調査、貿易統計、2 月の鉱工業生産指数(確報値)、第 3 次産業活動指数、建設総合統計が更新された。

3 月の貿易統計によれば、通関ベースの貿易収支は-826 億円と 2 ヶ月ぶりの赤字。季節調整値は-6,213 億円と 13 ヶ月連続の赤字となっている。この結果、1-3 月期の貿易赤字は 1.442 兆円となったが、10-12 月期より赤字幅は 3%縮小した。GDP ベースの実質純輸出の 1-3 月期予測値は先週より下方修正されたが、依然 2 期ぶりの前期比プラスとなっている。

2 月の第 3 次産業活動指数は前月比横ばいとなった。同時に発表された公務等活動指数は同-0.8%低下し、3 ヶ月連続のマイナス。同指数の 1-2 月期平均値は 10-12 月期平均値より 2.0%低下した。このため 1-3 月期の実質政府最終消費支出の予測値は前期比-0.2%と先週から大幅に下方修正された。

一方、2 月の建設総合指数によれば、同月の公共工事は前年同月比+4.0%増加し 23 ヶ月ぶりのプラス。季節調整値も前月比+3.2%増加し、2 ヶ月連続のプラス。1-2 月期平均値は 10-12 月期平均比+21.5%大幅増加しており、復興需要による公共工事は本格的に拡大してきた。このため 1-3 月期の実質公的固定資本形成の予測値は前期比+15.2%と先週から上方修正された。

今週(4/23)の CQM(支出サイド)は、1-3 月期の実質 GDP 成長率を、内需が引き続き拡大し、純輸出も反転拡大するため前期比年率+4.7%と予測する。ただ内需(公的需要)および純輸出は先週から下方修正されている。3 月の第 2 週から 4 週連続で予測は上方修正されてきたが、この 2 週は反転したものの高水準を維持している。下方調整されたものの 1-3 月期日本経済は引き続きかなりの高成長が期待できる。この結果、2011 年度の実質 GDP 成長率は-0.1%(前回予測：0.0%)となろう。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。  
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。  
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6441-0550